

形容詞の相対最上級における冠詞

—— 名詞限定辞の共通部分としての定冠詞 ——

川 島 浩 一 郎*

0. はじめに

次の(1), (2), (3)に見られるように, 形容詞の相対最上級 (superlatif relatif de l'adjectif) の構文において, le, la そして les が現れることがある。

(1) Ainsi donc, [...], tu es *le* plus intelligent de tous ! (G. Simenon, *Le Petit Saint*, Collection Le Livre de Poche, 1964, p.67)

(2) La tour Eiffel, c'est Paris, bien sûr, *la* ville *la* plus importante de ma vie. (*Elle*, 19 septembre 2005, p.108)

(3) C'étaient *les* plus belles vacances de ma vie. (S. Japrisot, *La passion des femmes*, Collection Folio, 1986, p.220)

本稿では, 形容詞の相対最上級における le, la, les を分析することによって, 定冠詞が「名詞限定辞の共通部分」であることを論証する¹⁾。なお必要のない限りは, le, la, les の間に特に区別はつけない。実際, le と la は互いに条件変異体の関係にある同一の表意単位である (男性名詞を限定するか女性名詞を限定するかの相違)。また les は, 複数記号素 (複数性を標示する記号素) と定冠詞 (le あるいは la) とのアマルガムである (les の内部に複数記号素と

* 福岡大学人文学部准教授

le あるいは la が共存している)。つまり、複数記号素の有無を除けば、les は le や la と同一の表意単位である²⁾。

論述の手順は次の通りである。考察の準備として、まず 1. では、表意単位の対立と表意単位の成立の関係について確認する。表意単位が成立するためには、それが他の表意単位と対立していることが必要である。2. では具体的に、形容詞の相対最上級における le, la, les を分析する。

そして 3. では、2. での分析をふまえて、定冠詞がすべての名詞限定辞の共通部分であることを示す。言い換えれば、定冠詞は無標の名詞限定辞である。

1. 表意単位の対立と表意単位の成立

表意単位の成立は、他の表意単位との対立を前提としている。ある表意単位が成立するためには、他の表意単位との対立が必要である。言語記号は A であるか B であるか C であるか、複数の可能性があるときに限って、A であることや B や C であることに意味がある。論理的に A でしかありえない場合は、B や C でないのはもちろん、それは A でさえない。どれか一つでしかありえないのなら、A や B, C という対立そのものが無意味だからである。少なくとも A, B, C という対立があるときの A と、それがいないときの A は、別物と考えなければならない。

仮に色彩として白色しかなかったとしたら、その色を「白」と呼ぶことに何か意味があるだろうか。そのような場合には、そもそも「色」という概念すら明確には存在しえないはずである。また、犬という動物に柴犬しか存在しないとしたら、「犬」の指示対象は「柴犬」のそれに等しいのだから、「柴」の部分には実質的な情報がないことになる。「柴」という表意単位が意味を持つためには「土佐 (犬)」や「ハスキー (犬)」など、犬の他の種類との対立が前提となっていなければならない。

ある文脈における対立の存在は、その文脈において選択が可能であることによって保証される。あれかこれかを選べるということが、選択対象の間に明確な対立があることを意味するからである。また、ある文脈で選択が可能であることは、その文脈で換入（commutation）が可能であることと同義である。

(4) *Il a fait une dépression.* (F. Vargas, *Dans les bois éternels*, Collection J'ai lu, 2006, p.226)

(5) *Il faut gagner du temps.* (*Dans les bois éternels*, p.372)

たとえば(4)のilは、elleなどと入れ換えが可能である。このことから、(4)のilが表意単位として明確に機能していることが分かる。表意単位としてilかelleかを選べるという事実が、ilやelleのような表意単位が成立するための対立の存在を保証しているからである。一方、(5)のilは他の表意単位との入れ換えができない。他の表意単位との対立が保証されていないのだから、fautという動詞に従属するilには表意単位が成立するための基盤がないことになる。(5)のilは実質的には、明確な表意単位でさえない（むしろfautの一部）。少なくとも、ilかelleかを選べるときのilとは別物である。実際(4)のilが人称代名詞であるのに対して、(5)のilは非人称代名詞と呼ばれる。

このように、BやCと換入ができるときのAと、BやCとの換入ができないときのAは、厳密には別物と考えなければならない。少なくとも、BやCとの対立の有無という点において、この2種類のAが互いに異なっていることは明らかである。

互いに対立するA, B, Cに共通部分が存在する場合、BやCとの対立が解消したAは、論理的な帰結として、A, B, Cの共通部分であると考えざるをえない。AとB, Cの対立が解消することは、共通部分以外の部分が無効化することと同義だからである。たとえば、男性の人間(homme)と女性の人間(femme)の対立がなくなれば、そこに残るのは、これらの共通部分である人間(homme)だけである。

2. 形容詞の相対最上級における冠詞

2.1. être le plus Adjectif

動詞（たとえば être）の属詞の位置にある形容詞の相対最上級構文では、(6), (7), (8) に見られるように、名詞限定辞としてはもっぱら le, la あるいは les が用いられる。

(6) Warren est sûrement *le* plus italien de toute la famille, [...]. (T. Benacquista, *Malavita encore*, Collection Folio, 2008, p.219)

(7) La conquête amoureuse est *la* plus égoïste des croisades. (M. Levy, *Sept jours pour une éternité...*, Collection Pocket, 2002, p.133)

(8) Ma maman et mon papa sont *les* plus chouettes du monde ! (Sempé-Gosciny, *Le petit Nicolas*, Collection Folio, 1960, p.111)

これらの le, la そして les は、他の名詞限定辞（不定冠詞、部分冠詞、所有形容詞、指示形容詞など）と入れ換えることができない。つまり、この文脈での le, la, les は他の名詞限定辞と対立していない。また、le と la そして les と他の名詞限定辞の間には、少なくとも、名詞限定辞であるという共通部分がある。

以上の観察は、(6), (7), (8) のような文脈（属詞の位置の形容詞の相対最上級）に現れる le や la が、すべての名詞限定辞の共通部分であることを示している（les は複数記号素と le あるいは la のアマルガム）。名詞限定辞の間の対立が解消している状態とは、共通部分以外の要素が無効化している状態に他ならない（1. を参照）。

音韻対立の中和における原音素（archiphonème）は、対立が中和する諸音素の共通部分である³⁾。すべての名詞限定辞の共通部分を、原音素をまねて「原名詞限定辞（archi-déterminant nominal）」と呼んでみることにしよう。ただし、この用語によって原音素と原名詞限定辞の間に完全な対応関係があること

を示唆したいわけではない。音素と表意単位の間には、完全な平行性があるわけではないからである。

以上の分析をまとめておこう。動詞の属詞位置において形容詞の相対最上級を構成する *le* と *la* は、これらが *les* に含まれる場合もそうでない場合も、原名詞限定辞（すべての名詞限定辞の共通部分）だと考えられる。属詞位置での形容詞の相対最上級の構成において、*le*, *la*, *les* は他の名詞限定辞と対立しないからである。

このような原名詞限定辞が本来の名詞限定辞であるかどうかには、議論の余地がないわけではない。たとえば（6）の *le plus italien* では、*le* が名詞を直接的に限定しているわけではない。名詞を限定しない名詞限定辞という存在は、確かにやや奇妙ではある。しかし本稿では、伝統的な学校文法の解釈と同様に、（6）、（7）、（8）のような文脈に現れる *le*, *la*, *les* は名詞限定辞であると考える。この問題については 2.3. で再び言及する。

(9) *Qu'est-ce que les hommes apprécient le plus chez les femmes...*

(M. Dugowson, *Mina Tannenbaum*, Collection Le Livre de Poche, 1994, p.74)

(10) *Je dois oublier tout ça le plus vite possible.* (T. Benacquista, *Tout à l'ego*, Collection Folio, 1999, p.15)

(11) *Je me suis pourtant dépêché le plus que j'ai pu !* (S. Testud, *Gamines*, Collection Le Livre de Poche, 2006, p.50)

（9）、（10）、（11）に見られるような、副詞の相対最上級における *le* が本来の意味での名詞限定辞であるかどうかについては、別の考察・分析が必要である（たとえば、通時的な視点からの分析や、形容詞の相対最上級とのアナロジー、原名詞限定辞の特殊な分布としての分析など）。本稿では、この問題には立ち入らない。

2.2. le Nom le plus Ajectif

名詞を限定する形容詞の相対最上級が、その名詞に後置される場合、次の(12), (13), (14)に見られるように、le, la, les が二カ所に現れることがある。

(12) *Le mec le plus cool du monde se nomme Tom Ford.* (F. Beigbeder, *L'Égoïste romantique*, Collection Folio, 2005, p.297)

(13) *L'espoir est la chose au monde la plus douloureuse.* (F. Beigbeder, *Windows on the World*, Collection Folio, 2003, p.151)

(14) *Les mecs les plus amoureux sont souvent les plus mutiques, [...].*
(A. Girod-de l'Ain, *De l'autre côté du lit*, Collection J'ai lu, 2003, p. 200)

たとえば(12)においては、le mecにおけるleとle plus coolにおけるleの二カ所である。前者(le mecのle)を、le, la, lesの三つの形態をleで代表させて「前半のle」と呼ぶことにしよう。そして後者(le plus coolのle)を「後半のle」と呼ぶことにする。

「後半のle」は、原名詞限定辞である(2.1.を参照)。「後半のle」は(6)のle plus italienのleと同様に、他の名詞限定辞と入れ換えることができないからである。つまり「後半のle」は他の名詞限定辞との対立を含意していない。

(15) *C'est une interprétation simple, mais la plus logique.* (M. Chattam, *In tenebris*, Collection Pocket, 2002, p.117)

(16) *Je souris à mon tour de mon air le plus convaincant.* (*Gamines*, p. 115)

(17) *Et cette chose la plus importante c'est VOUS.* (Internet)

それに対して「前半のle」は、(15)のune interprétation, (16)のmon airそして(17)のcette choseに見られるように、他の名詞限定辞と入れ換えが可能である。つまり「前半のle」は、他の名詞限定辞との対立を含意した、通

常の定冠詞であると考えてよい。

2.3. le plus Adjectif Nom

名詞を限定する形容詞の相対最上級が、その名詞に前置される場合、次の(18)、(19)に見られるように、le, la, lesが二カ所に現れることはない。このときのle, laそしてlesを(le, la, lesをleで代表させて)「唯一のle」と呼ぶことにしよう。

(18) Tu es *le* plus adorable garçon du monde. (*Le Petit Saint*, p.111)

(19) Le silence est *la* plus belle expression de l'amour. (A. Nothomb, *Péplum*, Le Livre de Poche, 1996, p.76)

(20) Le Dr Lagarde était *la* légiste *la* plus renommée du pays, sans concurrence. (*Dans les bois éternels*, p.24)

(21) Elle était *la* plus belle femme du monde. (*La passion des femmes*, p.141)

ここで、たとえば(20)と(21)を比較してみよう。(20)の*la légiste la plus renommée*に*la*が二つあるのは(前半および後半のle)、形容詞が名詞に対して後置されているからである(2.2を参照)。それに対して(21)の*la plus belle femme*に*la*が一つしかないのは(唯一のle)、形容詞が名詞に対して前置されているからに他ならない。そしてleやlaはあくまでも単一の記号素であるから、「唯一のle」は「前半のle」と「後半のle」を足しあわせたものではない。

以上の事実は「前半および後半のle」と「唯一のle」が互いに、形容詞の位置の違いによる条件変異体の関係にあることを示している。つまり*la légiste la plus renommée*における二つの*la*と、*la plus belle femme*における唯一の*la*は、条件変異体の関係にある、同一の表意単位であると考えざるをえない。

(22) Paris était vraiment *la* plus belle ville du monde, encore plus quand

on s'en éloignait. (M. Levy, *Mes amis Mes amours*, Collection Pocket, 2006, p.333)

(23) Tu as *une* meilleure idée ? (F. Vargas, *Pars vite et reviens tard*, Collection J'ai lu, 2001, p.240)

(24) J'ai promis à *ma* plus jeune sœur qu'on va bien s'amuser. (*Gamines*, p.10)

(25) Je l'aimais, *cette* plus grande pièce musicale du hip-hop... [...]. (Internet)

実際、たとえば (22) の *la plus belle ville* における *la* (唯一の *le*) は「前半の *le*」と「後半の *le*」を兼任していると考えられる。つまり *la plus belle ville* の唯一の *la* は、*la légiste la plus renommée* の「後半の *le*」と同様に、形容詞の相対最上級を構成する要素である。これを *une* と入れ換えると、(23) の *une meilleure idée* のように、形容詞は最上級ではなくなってしまう。また *la plus belle ville* の *la* (唯一の *le*) は、(24) や (25) に見られるように、所有形容詞および指示形容詞と入れ換えが可能である。この事実は「唯一の *le*」が「前半の *le*」に匹敵するステータスを持つことを示している。

(26) *La plus urgente des mesures est d'empêcher le mort de marcher.* (F. Vargas, *Un lieu incertain*, Collection J'ai lu, 2008, p.257)

(27) *La plus longue de leur conservation est de quatre minutes seize secondes.* (*Un lieu incertain*, p.135)

(28) On croit que *la plus courante* est de percer le cœur. Mais non. Partout. *Le plus important*, ce sont d'abord les pieds. (*Un lieu incertain*, p.257)

(26) の相対最上級である *la plus urgente* には、それが直接的に限定するような名詞が明示的には存在しない。相対最上級を構成する要素である点では、この *la* は「後半の *le*」である。また、*la plus urgente* の全体が定名詞句であ

る点では、この *la* は「前半の *le*」でもある。つまり *la plus urgente* の *la* は「前半の *le*」であると同時に「後半の *le*」でもある。

(29) *Tibère est de loin le plus beau des trois.* (F. Vargas, *Ceux qui vont mourir te saluent*, Collection J'ai lu, 1994, p.47)

(30) [...]: *Michael Stipe est le plus grand philosophe contemporain.*
(*L'Égoïste romantique*, p.354)

(29) と (30) を比較してみよう。(29) の *le plus beau* における *le* と、(30) の *le plus grand philosophe* における *le* は、形容詞の相対最上級の分布が異なる（属詞の位置か名詞限定か）ことによって生じた条件変異体の関係にある。この事実は、名詞を直接的に限定しない (29) の *le* もまた、(30) の *le* と同様に、名詞限定辞であることを示している (2.1. を参照)。

以上の分析をまとめておこう。「唯一の *le*」と「前半および後半の二つの *le*」は互いに、形容詞の位置の相違によって生じた条件変異体の関係にある。言い換えれば「唯一の *le*」と「前半および後半の *le*」は、同一の表意単位がかたちを変えて現れたものに他ならない。したがって「唯一の *le*」は「前半の *le*」であると同時に「後半の *le*」でもある。

3. 無標の名詞限定辞としての定冠詞

3.1. 名詞限定辞の共通部分としての定冠詞

ここまでの分析をふまえて、定冠詞が名詞限定辞の共通部分であることを論証する⁴⁾。

(31) *Dix ans est le moment le plus solaire de l'enfance.* (A. Nothomb, *Robert des noms propres*, Collection Le Livre de Poche, 2002, p.77)

(32) *Son père était le plus grand joaillier japonais.* (A. Nothomb, *Biographie de la faim*, Collection Le Livre de Poche, 2004, p.183)

(31) の *le moment le plus solaire* における二つの *le* は、(32) の *le plus grand joailler* における唯一の *le* と同一の表意単位である (2.3. を参照)。

ひるがえって考えれば、*le moment le plus solaire* における二つの *le* もまた、互いに同一の表意単位であると考えざるをえない。(31) の *le moment le plus solaire* における「前半の *le*」は、(32) の *le plus grand joailler* における「唯一の *le*」と同じステイタスを持ち、(31) の「後半の *le*」もまた (32) における「唯一の *le*」と同じステイタスを持つことから、(31) における「前半の *le*」と「後半の *le*」は互いに同じものでなければならない。

ここに一見、矛盾が生じているように感じられる点がある。前半の (他の名詞限定辞との対立を含意した) *le* と、後半の (他の名詞限定辞との対立を含意しない) *le* は、互いに別物のはずだからである (1. を参照)。要するに *le moment le plus solaire* の「前半の *le*」が通常の定冠詞であるのに対して「後半の *le*」は原名詞限定辞である (2.2. を参照)。

通常の定冠詞が原名詞限定辞と同じステイタスを持つという矛盾を解消するには、定冠詞そのものを、すべての名詞限定辞の共通部分であると考えざるをえない。定冠詞がもともと「名詞限定辞の共通部分」であるならば、それが原名詞限定辞と等価であるのは当然である。

以上の論理から、定冠詞は名詞限定辞の共通部分 (無標の名詞限定辞) に他ならないという結論になる。冠詞に範囲を限れば、定冠詞は無標の冠詞 (定冠詞, 不定冠詞, 部分冠詞の共通部分) である。

(33) *J'aime la bière.* (E. Hemingway, *Paris est une fête*, Collection Folio, 1964, p.119)

(34) *Il y a de la bière ?* (*Un lieu incertain*, p.252)

実際 (33) の *la bière* と (34) の *de la bière* に見られるように、定冠詞はかたちのうえでも、定冠詞と部分冠詞の共通部分である。

3.2. 所有形容詞・指示形容詞

参考のために、所有形容詞と指示形容詞の場合にも一瞥を加えておこう。

(35) [...] : elle a été mon amour, mais aussi *mon* amie *la* plus proche, et son amitié me manque autant que le côté amoureux. (Internet)

(36) Tu es *ma* meilleure amie depuis plus de deux ans... (*Sept jours pour une éternité...*, p.167)

(35) の *mon* amie *la* plus proche における *mon* および *la* と、(36) の *ma* meilleure amie における *ma* は、互いに条件変異体の関係にある (2.3. を参照)。ただし *mon* amie *la* plus proche における *mon* と *la* を同じものと考えすることは難しい。所有形容詞には (*le*, *la*, *les* とは異なって) 属詞の位置で相対最上級を構成する用法がないのだから (2.1. を参照), *mon* と *la* の間には何らかの役割り分担があると考えざるをえない。要するに *mon* amie *la* plus proche における *mon* と *la* は同じものというよりも、むしろ *mon* と *la* をあわせて (*ma* meilleure amie の *ma* に相当するような) 一つの単位である。

(37) On ne tarde pas à la découvrir *cette* fille *la* plus heureuse du monde, [...]. (Internet)

(38) *Ce* plus petit morceau de fer possible est l'atome de fer. (Internet)

指示形容詞に関しても同様である。(37) の *cette* fille *la* plus heureuse における *cette* そして *la* と、(38) の *ce* plus petit morceau における *ce* は、互いに条件変異体の関係にある (2.3. を参照)。ただし *cette* fille *la* plus heureuse における *cette* と *la* が同一物であるとは言えない。指示形容詞には (*le*, *la*, *les* とは異なって) 属詞の位置で相対最上級を構成する用法がないのだから (2.1. を参照), *cette* と *la* には何らかの役割りの分担があると考えられる。つまり *cette* fille *la* plus heureuse における *cette* と *la* は同じものというよりも、この *cette* と *la* で (*ce* plus petit morceau の *ce* に相当するような) 一つのものと見なすべきである。

4. まとめ

本稿では、形容詞の相対最上級における *le*, *la*, *les* を分析することによって、定冠詞が「無標の名詞限定辞」つまり「すべての名詞限定辞の共通部分」であることを論証した。冠詞に範囲を限れば、定冠詞は「無標の冠詞（定冠詞、不定冠詞、部分冠詞の共通部分）」である。

[註]

- 1) 定冠詞を無標の項と捉える観点については、渡瀬（1990）および木下（1994）を参照。
- 2) 定冠詞 *les* が定冠詞と複数記号素のアマルガムであることについては、MARTINET（1979）を参照。
- 3) 中和と原音素については、AKAMATSU（1988）を参照。
- 4) 定冠詞が無標の冠詞であることを論証する試みは、川島（2010a, 2011a, 2011b, 2011c）でもなされている。

[参考文献]

- AKAMATSU, Tsutomu (1988), *The Theory of Neutralization and the Archiphoneme in Functional Phonology*, John Benjamins.
- 藤田知子 (2005) 「最上級構文論」『木下光一教授喜寿記念論文集』白水社, 217-236.
- FURUKAWA, Naoyo (1986), *L'article et le problème de la référence en français*, France Tosho.
- 川島浩一郎 (2010a) 「定冠詞と人の名前について」『ふらんぼー』第35号, 東京外国語大学欧米第二課程フランス語研究室フランス研究会, 1-18.
- 川島浩一郎 (2010b) 「X (c')est X 型トートロジーとことばの遊び」『フランス

語学研究』第44号別冊，日本フランス語学会，39-56.

川島浩一郎（2011a）「基数形容詞の前の冠詞について — 一定冠詞，不定冠詞，部分冠詞の共通部分としての定冠詞 —」『福岡大学人文論叢』第42巻第4号，1203-1216.

川島浩一郎（2011b）「単数性と非複数性 — 一定冠詞・不定冠詞・部分冠詞の共通部分としての定冠詞 —」『ふらんぼー』第36号，東京外国語大学欧米第二課程フランス語研究室フランス研究会，17-33.

川島浩一郎（2011c）「冠詞と都市名について」『福岡大学人文論叢』第43巻第1号，147-159.

木下光一（1994）「フランス語定冠詞の無標性」『フランス語フランス文学研究』第2号，獨協大学大学院外国語学研究科，17-26.

MARTINET, André (1979), *Grammaire fonctionnelle du français*, Didier.

長沼圭一（2004）『フランス語における有標の名詞限定の文法』早美出版社.

渡瀬嘉朗（1990）「定冠詞と「自己」照応形式（その1）」『東京外国語大学論集』第40号，65-78.

*本稿は渡瀬（1990）に触発・啓蒙されて執筆した。もちろん間違いや誤解のすべては筆者自身のものである。